



題字…今山政三郎氏

発行所 新潟県小学校長会広報部 新潟市中央区幸西3-3-1 じょいあす新潟会館2階 TEL 025-290-2231 FAX 025-245-6060 E-mail: nkskgo@niigata-inet.or.jp 印刷所 株式会社 文久堂



尖った個性を大事にする教育

新潟県小学校長会 会長

吉田 隆

「月刊 日本教育」の本年一月号に掲載された「ユニコーンを生む教育を」という論説に目が留まった。

ユニコーンとは企業評価額が十億ドル以上の非上場ベンチャー企業のことである。世界を席巻するGAF(A)（グーグル、アップル、フェイスブック、アマゾン）の予備軍と目されている。

この論説では、我が国がユニコーンを生むためには、社会の同質化を避けるべく尖った個性を大事にする教育が必要であることを説いている。

私は、ここ数年、若手教員に対して、「教員として 尖って生きよ」と励ますことが多い。在外教育施設への派遣希望者の減少や指導要領の枠を越えていくような大胆な教育実践が乏しくなってきたことなど、若者の内向き傾向・安定志向を危惧するからである。 そのような問題意識をもっていただ

ような思いであった。 同時に、私自身が個性豊かな尖った人材を輩出できる学校づくりを行っているのかという思いがよぎった。

創立百四十七年目を迎えた当校では、引き継がれている様々な伝統的な取組があるが、「伝統と革新の融合」の視点からカリキュラム改革を進めている。 目指す子ども像を保護者と共有していく必要性から、四月に保護者アンケートを実施した。五十五年間続いている教育目標の修正も含め検討を進めている。また、子どもたちの多様な個性を活かす視点から、各種行事の見直しを始めた。まだまだ、やるべき事は山積している。

尖った個性を大事にし、ユニコーンを生む学校教育を具現化するために、「校長自身も尖って生きる」気概をもちたい。 自戒を込めて。

(新潟 新潟小学校)

令和元年度 新潟県小学校長会 役員名簿

●本部役員

役職	郡市・政令指定都市	任校	氏名
会長	新潟	新潟小	吉田 隆
副会長	長岡・三島	阪之上小	熊倉 達也
副会長	上越	大手町小	塚田 賢
理	対策部	部長	五泉・東蒲 五泉小 有本 秀雄
		副部長	新潟 葛塚小 高橋 いずみ
		副部長	上越 大町小 中島 秀晴
	福利部	部長	長岡・三島 表町小 関谷 祐二
		副部長	新潟 浜浦小 政谷 英樹
		副部長	長岡・三島 脇野町小 吉井 純子
事	研修部	部長	上越 直江津小 吉田 光夫
		副部長(小教研)	新潟 小針小 長谷川 豊
		副部長(教育課程)	長岡・三島 希望が丘小 渡邊 茂夫
	副部長(生涯指導)	上越 東本町小 上野 有紀	
		副部長(同知教前)	柏崎・刈羽 柏崎小 堀井 重人
		副部長(同教会)	上越 国府小 太田 敬祐
広報部	部長	村上・岩船 村上小 鈴木 正美	
	副部長	長岡・三島 新町小 櫻井 真理	
	副部長	新潟 笹口小 田村 篤	
監査	十日町・中魚 十日町小 山岸 一朗		
	上越 高志小 平間 えり子		
	新発田・北蒲 外ヶ輪小 井上 正裕		
幹事	幹事長	新潟 新津第一小 田邊 裕一	
	庶務・会計	長岡・三島 中島小 若月 典明	
	庶務・災害	新発田・北蒲 御免町小 藤井 聡	

●初等教育編集委員・校長会報編集委員・ホームページ委員

役職	郡市・政令指定都市	任校	氏名	
初等教育編集委員	委員長	三条	月岡 小 石井 正文	
	副委員長	魚沼	小出 小 樋口 健一	
	委員	新潟	丸山 小 泉 恭子	
	委員	長岡・三島	豊田 小 佐藤 久美子	
	委員	新発田・北蒲	東豊 小 高橋 祐二	
	委員	三条	保内 小 斎藤 京弥	
	委員	阿賀野	笹岡 小 小泉 明美	
	委員	新潟	巻南 小 田中 修二	
	校長会報編集委員	委員長	新潟	大野 小 岩崎 道郎
		副委員長	妙高	新井 小 宮野 正則
委員		三条	裏館 小 小林 徹哉	
委員		燕・西蒲	燕北 小 佐藤 由栄	
委員		長岡・三島	上組 小 目黒 由美	
ホームページ委員		委員長	新発田・北蒲	紫雲寺小 茂呂 良彦
	副委員長	長岡・三島	出雲崎小 吉田 順一	
	委員	長岡・三島	神田 小 長尾 昭浩	
	委員	長岡・三島	川崎 小 高橋 和人	
	委員	柏崎	川尻 小 三宮 一行	
	委員	新潟	東中野山小 山本 政義	

●事務局

県小学校長会	事務局長	庶務	宮内 章
	事務局次長	会計	宮本 均
県・市小学校教育研究会	事務局長	庶務・会計(新潟小)	大関 正人

第七十九回県小代議員会

新潟市大会

○令和元年五月八日(水) ○新潟テルサ

本年度の県小代議員会は、新緑の季節を迎えた新潟市で開催された。

一 開会式

新潟市長中原八一様はじめ、十一名のご来賓、代議員百十六名、オブザーバー八十七名、本部役員等、大会サポートの新潟市小学校長会員を含め、総勢二百八十名を超える参加者で開会式が行われた。

開会のあいさつで、吉田隆会長は、「新学習指導要領の全面実施が迫っている。プログラミング教育や英語の教科化等により、『自律的に行動する能力』『多様な社会グループにおける人間関係形成能力』などの基礎を育むことが大切である。同時に働き方改革という大きな課題も生じている。この状況下においても、教育の質を低下させてはならない。今こそ、校長が先の見通しと確固たる経営理念をもって、家庭・地域と協働しながら、創意と活力あふれた学校づくりを推進していく」と力強く語り掛けた。

来賓祝辞では、新潟市長中原八一様から、「学校は、学力・体力の向上、豊かな心の育成、いじめや不登校への

対応に加え、子どもの貧困対策におけるプラットフォームとして、寄せられる期待や求められる役割が大きくなっていく。また、これまでの働き方を根本から見直し、教師が自ら授業力を磨くとともに、日々の生活の質や教職人生を豊かにし、人間性や創造性を高め、効果的な教育活動ができるようにしていかなければいけない。」との祝辞をいただいた。

次に、新潟県教育委員会教育長稲荷善之様が、三月に改訂した教育振興基本計画の施策について、次の三点に絞って話された。

- ・いじめ防止の取組について
- ・学校の組織力強化・教員の意識改革・県民運動の見直し等の視点から
- ・確かな学力の育成について

学んだことを活用し、様々な課題解決に向け、確かな学力を一層育めるよう、授業改善への支援や教職員の資質・能力向上を図る取組の充実・教職員の多忙化解消について

時間外勤務の上限についての検討、勤務実態の調査と研究、教職員の配

置改善等、働き方改革に向けた環境づくり

新潟市教育委員会教育長前田秀子様から、「学校は、子どもや教職員が生き生きと輝く場所であってほしい。そのため、これまで以上に県小学校長会と連携を図り、学校現場の様々な課題解決に取り組んでいく。予測困難な将来においても夢や希望をもち、自分自身の人生と社会を切り拓いていける『しなやかでたくましい子どもたち』を育てていきたい。」との祝辞をいただいた。

続いて、オブザーバーの新潟市立小須戸小学校長が、吉田会長より会章を授与され、決意を述べた。

二 全体会

議長団として、新潟市立松浜小学校長、新潟市立山潟小学校長が選出された。初めに、平成三十年年度第二回評議員会で承認された、会則の改正と本年度役員報告があった。令和元年度の役員として会長に新潟市立新潟小



学校の吉田隆校長、副会長に長岡市立阪之上小学校の熊倉達也校長、上越市立大手町小学校の塚田賢校長、理事十五名、監査三名、幹事等の会長委嘱の役員が紹介された。

その後、議事に入り、各議案が提案通りに承認された。令和元年度の活動方針・事業計画案で、吉田会長は活動の大綱について説明した。

(一) 小学校の統廃合による会員数の減少を想定し、代議員数の大幅な改定を行った。

(二) 「働き方改革の実現に向けた環境整備が求められる」という、一歩踏み込んだ表現にした。

(三) 「社会に開かれた教育課程」の実現のため、学校と社会が目標を共有することの必要性を示した。

さらに、吉田会長より、新潟市大会において大会宣言を行うことが提案された。起草委員長新潟市立東山の下小学校長が宣言文を取りまとめ、提案し承認された。

三 閉会式

開催地を代表して、新潟市小学校長会長が、時間的制約のある中で準備してきたことに触れ、関係者に感謝の意を伝えた。続いて、次期開催地を代表して、長岡市立表町小学校長が、新潟市大会へのお礼と次期開催に向けての決意を述べた。最後に塚田副会長の閉会宣言で全体会が終了した。

対策部

提案	部長 五泉小	有本秀雄
司会	副部長 葛塚小	高橋いずみ
記録	副部長 大町小	中島 秀晴
	黒崎南小	野瀬 浩司

〈提案要旨〉

一 活動の重点

「各市町村における教育関連予算の拡充」に焦点を当て、各都市小学校長会・政令指定都市小学校長会や関係機関等の協力を得ながら組織的な調査研究を行い、各学校や都市小学校長会・政令指定都市小学校長会の対策活動の参考となる資料を提供し、その運営に寄与する。

二 活動の概要

市町村における教育関連予算等に関する調査研究を報告書にまとめるとともに、資料編「小学校における各市町村単独の人的支援等の実態」を作成し、各都市小学校長会・政令指定都市小学校長会に提供する。

【市町村教育委員会への問い合わせによる調査】

- ・ 学校基本情報
- ・ 教育関連の各種人的配置人数
- ・ 「外国語科」への取組
- ・ 「プログラミング教育」への取組

☆学校における働き方改革の実現に向けた環境整備への取組

【校長への調査】

- ・ 特別支援教育の実態
- ・ 市町村予算による人的支援の現状
- ・ 市町村予算による人的支援の現状についての満足度と現状を補う対応
- ・ 「外国語科」への取組

☆「プログラミング教育」への取組

(二) 調査研究活動

第一・第二調査研究委員会を設置

した調査研究活動の推進

・ 郡市及び政令指定都市対策部の組織を生かした活動の推進

三 調査研究内容の

分担・活動予定

(一) 第一調査研究委員会

（市町村教育委員会への問い合わせによる調査）

・ 委員長 葛塚東小学校長

(二) 第二調査研究委員会

（校長への調査）

・ 委員長 新潟小学校長

(三) 主な活動予定

・ 五〜十月：第一〜六回委員会で調査内容の検討、結果の整理・分析

・ 九月：「資料編」を各都市会長へ

・ 十一月：「調査研究活動報告書」

・ 十一月：「調査研究活動報告書」

・ 十一月：「調査研究活動報告書」

・ 十一月：「調査研究活動報告書」

・ 十一月：「調査研究活動報告書」

・ 十一月：「調査研究活動報告書」

・ 十一月：「調査研究活動報告書」

部会記録

福利部

提案	部長 表町小	関谷 祐二
司会	副部長 浜浦小	政谷 英樹
記録	副部長 脇野町小	吉井 純子
	鏡淵小	江口 滋

〈提案要旨〉

一 活動の重点

厳しさを増す教職員の給与・処遇や退職後の再就職・再任用、及び福利厚生を巡る情勢に対処するため、さらには政令指定都市新潟市への包括的権限委譲に伴う課題に対応するため、県中学校長会や全国連合小学校長会、退職校長会などと連携し、情報収集や調査研究を行い、関係機関・団体に要望する。また、その改善・充実に資する諸活動、ライフプランに関する学習を推進し、教職員の福利の向上に寄与する。

二 活動の概要

福利部内に三委員会を組織し、調査研究活動、要望活動及び福利厚生に係る情報提供を行う。

(一) 県小学校長会として行う調査研究活動等

1 校長の給与実態についての調査

2 新潟県と新潟市との臨時職員、非常勤職員の待遇等の差異調査

3 校長退職後の再就職状況等の調査及び再任用制度に関する実態把握

4 校長退職後の再就職状況等の調査及び再任用制度に関する実態把握

5 校長退職後の再就職状況等の調査及び再任用制度に関する実態把握

6 校長退職後の再就職状況等の調査及び再任用制度に関する実態把握

7 校長退職後の再就職状況等の調査及び再任用制度に関する実態把握

8 校長退職後の再就職状況等の調査及び再任用制度に関する実態把握

9 校長退職後の再就職状況等の調査及び再任用制度に関する実態把握

握と雇用促進のための要望活動

4 退職後の生活についての意識調査及び定年延長に関する情報収集

県中学校長会等と一体となって推進する活動

1 県内福利関係六団体への要望の

取りまとめと懇談会の開催、ライフプランに関する活動のための協議及び報告書の作成（県中学校長会主管）

2 福利広報「退職時の手続き一覧」の作成と配付（県小学校長会主管）

3 福利厚生関連事業への積極的参加や施設利用の呼び掛け

その他

・ 「調査研究活動報告書」の原稿作成と活動の振り返り

三 調査研究委員会の活動内容・分担

給与委員会

委員長 石坂小学校長

・ 校長給与等の実態調査や新潟県と新潟市との臨時職員、非常勤職員の待遇等の差異調査

福利第一委員会

委員長 吉川小学校長

・ 退職校長への再就職等の状況調査、雇用促進のための要望活動

「退職時の手続き一覧」の作成と配付

福利第二委員会

委員長 山田小学校長

・ 福利関係六団体への要望調査と懇談会の開催、六団体との協働によるライフプランに関する活動推進

研修部

提案	部長	直江津小	吉田	光夫
司会	副部長	小針小	長谷川	豊
	副部長	希望が丘小	渡邊	茂夫
	副部長	東本町小	上野	有紀
	副部長	柏崎小	堀井	重人
	副部長	国府小	太田	敬祐
記録	副部長	鎧郷小	渡貫	郁乃

〈提案要旨〉

一 活動の重点

新学習指導要領等への対応を喫緊の課題と捉え、地域の信頼を得る創造的な学校経営を展開するために、校長会研究集会を開催して研修を深める。また、教育課程、生徒指導、同和教育の三委員会で調査研究や研修に取り組み、校長の資質・指導力の向上を図る。

二 活動の概要

(一) 校長会研究集会の開催

新学習指導要領に即応した研修に校長自らを取り組み、具体的に協議し合うことを目指す。分科会を設定し、校長として「学校経営」の視点を明確にした実践を持ち寄り、討議し合う。

(二) 第七十一回関東甲信越地区校長研究協議会千葉大会への参加

副主題「豊かな発想力や創造性を身に付け 多様な人々と協働しながら未来を拓く子どもをばぐくむ学校経営」

(三) 第七十一回全国連合小学校校長会研究協議会秋田大会への参加

副主題「ふるさとを愛し 志をもつて 自ら新しい社会を切り拓く子どもを育てる学校経営の推進」

(四) 委員会活動

1 教育課程委員会

教育課程の実施状況や教育課程に関する諸問題について調査研究を行う。アンケート及び聞き取り調査等から「新たな知を拓き 人間性豊かな社会を築く 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」の実情を探り、各校の教育課程の改善、充実のための資料とする。

2 生徒指導委員会

生徒指導に関する実情について調査研究を行う。これまで、いじめや不登校、問題行動等の解消や未然防止を目指した「社会性の育成」をテーマとして、児童の実態や地域の実情に応じた創意ある取組について広く調査研究を進めてきた。本年度もこれを継承し、「いじめ見逃しゼロ県民運動」の一環と捉えて、重点的に取り組む。

3 同和教育委員会

新潟県同和教育研究協議会の各種委員の選出及び諸会議への出席、各種研究集会への参加態勢の確立などを通して、同和教育推進の活動を行う。また、新潟県同和教育研究集会、部落解放新潟県研究集会、「いのち・愛・人権」展等、同和教育に関わる各種大会に参加して研修を進める。

部会記録

広報部

提案	部長	村上小	鈴木	正美
司会	副部長	新町小	櫻井	真理
	副部長	笹口小	田村	篤
	初等教育	月岡小	石井	正文
	校長会報	大野小	岩崎	道郎
	中ニシ	紫雲寺小	茂呂	良彦
記録		中野山小	小林	靖直

〈提案要旨〉

一 活動の重点

会員の連携と学校経営の改善・充実に資するよう、県小学校長会及び各郡市・政令指定都市小学校長会の活動や当面する諸問題に関する情報を提供するとともに、活動の記録として保管し、その活用を図る。また、会員相互の潤滑油としての役割を果たしていく。

二 活動の概要

(一) 「初等教育」の発行計画

1 一昨年度より、掲載内容を精選し、年一回の発行としている。

(二) 「校長会報」の内容の重複を避け、記録性・資料性に留意し、一層親しみのもてる機関誌を目指す。

3 執筆依頼は、各郡市・政令指定都市校長会の推薦を原則とし、原稿提出の際もその確認を得ることとする。

(三) 新任校長は自己紹介があるので、別原稿依頼はできるだけ避ける。

5 予算面で多くの繰越金のある状況を踏まえ、その改善の方途を検討していく。

(四) 「校長会報」の発行計画

1 年四回の発行とする。
2 速報性を重視し、郡市・政令指定都市小学校長会の活動や研究校報告の様子等を紹介し会員の学校経営に寄与する。
3 執筆依頼の際は、執筆者に偏りが出ないように配慮する。
4 個人情報保護のため、原稿内(文中)の個人名表記は役職名等にどめる。
(三) 「ホームページ」運用計画
1 引き続き、QRコードを利用してアクセスの利便化を図っていく。
2 新しい内容の更新作業は、今年度からはすべてPDF化したものをアップロードする。
3 大きな変更がある場合は部長の確認をとる。さらに大きな変更が必要な場合は会長の確認をとる。
4 ホームページにおける個人情報の保護を徹底していく。氏名や顔写真等の掲載に留意する。

三 情報交換

各郡市広報部の活動状況について情報交換を行った。新潟市、長岡市、上越市、糸魚川市の「校長会広報誌」について、情報提供があった。全校長の顔写真の一覧掲載、実践記録としての発行、電子データでの配付等、特色ある活動が紹介された。